

生体腎移植でのHCV抗体陽性レシピエントにおける 腎生着率と生存率の検討

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2014-01-29 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 田端, 秀日朗 メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/10470/30337

主論文の要旨

生体腎移植での HCV 抗体陽性レシピエントにおける腎生着率と生存率の検討

東京女子医科大学第四内科学教室

(主任：新田孝作教授)

田端 秀日朗

透析会誌第 45 巻第 12 号 1147 頁～1153 頁（平成 24 年 12 月 28 日発行）に掲載

【要旨】

対象は 1990 年 1 月から 2009 年 12 月に東京女子医科大学泌尿器科で生体腎移植を施行した全患者 964 名である。HCV 抗体陰性患者 914 名（男性 583 名，女性 331 名）と HCV 抗体陽性患者 50 名（男性 34 名，女性 16 名）の 2 群に分け，腎生着率および生存率を比較した。2 群間で移植腎生着率を比較すると，HCV 抗体陰性群（%）vs. HCV 抗体陽性群（%）で，36 か月後 93.6 vs. 83.5，60 か月後 88.4 vs. 71.8，120 か月後 75.6 vs. 51.3 と HCV 抗体陽性群の生着率は経年的に有意に低下した（log-rank test $p < 0.001$ ）。2 群間での生存率を比較すると，36 か月後 98.3 vs. 94.0，60 か月後 97.3 vs. 89.3，120 か月後 93.7 vs. 81.3 と HCV 抗体陽性群の生存率は経年的に有意に低下した（log-rank test $p < 0.001$ ）。本研究は，生体腎移植患者のみを対象として，HCV 抗体陰性患者と HCV 抗体陽性患者の腎生着率および生存率を比較した，初めての大規模な観察研究である。HCV 抗体陰性患者と比較し HCV 抗体陽性患者では，腎生着率が低下し生存率も低下することが明らかとなった。腎生着率が低下する原因として，HCV 抗体陽性群では慢性拒絶反応，移植後腎炎および移植後糖尿病の発症が高率であったことがあげられる。移植前のインターフェロン療法が慢性拒絶反応を抑制し，移植腎生着率を向上させる可能性がある。本研究の限界は，肝不全による死亡を調査対象としておらず，肝不全死が生命予後に影響したかどうか不明なことである。